

6月23日（月） 朝礼のお話

本来、六月は雨の多い季節です。六月を水無月（みなづき）ともいいます。梅雨に入り、雨が多い季節であるのに、「水無月」というのは不思議ですね。ぜひ、調べてみてください。

日本には四季があり、日本人はそれぞれの季節にあわせた楽しみや生活の工夫をしています。

雨の多い季節「六月」は「梅雨」と呼ばれています。曇りや雨の日が多くなります。外遊びが大好きなみなさんにとっては過ごし難い季節かもしれません。

しかし、この時期、水が大量に必要な人たちがいるのをみなさんは知っていますか。

それは、米作りをしている農家の人たちです。稲は五月に苗を植えて、この雨の時期に大きく成長します。だから、稲を大きく丈夫に育てるには、この「梅雨」の時期は大量の水が必要で、米作り農家の人たちがとても大切にしている季節なのです。

また、この時期に元気いっぱい咲く花があります。それは、紫陽花です。昔から梅雨時を代表として美しさを誇っています。それは、雨に打たれながらも小さな花がガッチリとまとまって咲き、1つの大きな花に見える美しさがあるからです。紫陽花の花には協力する姿の美しさがあります。それに、咲いているうちにだんだん色が変わっています。初めは、白っぽい色をしています。植わっている場所の土の性質によって、ピンク色から赤色に変わったり、青色から紫色に変わったりするのです。このようなことから、紫陽花の別名は「七変化」とも言われます。

この他にも、紫陽花の葉っぱにつくカタツムリや田んぼで合唱しているカエルなどこの季節を元気に楽しんでいる生き物たちもいます。

みなさんも、この雨の季節を楽しく過ごす方法を工夫したり、雨の季節でしか見ることのできないものを見つけたり、「梅雨」の恵みを感じてみてください。（とは言うものの、今年は、この地域は雨が少ないのか！）